取組事例の詳細は
中央会HPでご覧いただけます

25
－
組合の事業再構築に
取組みましょう！

滋賀県中央会　オンライン動画　検索

再生時間▶12分程度

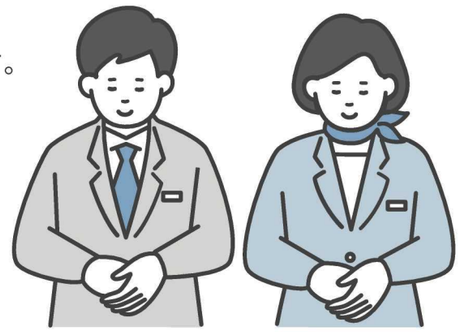
01 滋賀県印刷工業組合

02 滋賀県瓦工事協同組合

空き時間にお気軽に!
タブレットやスマホからでも
ご覧になれます。

2次元バーコードは
コチラ▶

中央会では組合様の
様々な取組を応援しております。
お気軽にご相談ください!



発　行　人

滋賀県中小企業団体中央会

〒520-0806 大津市打出浜2番1号（コラボしが21 5階）
TEL：077-511-1430　FAX：077-502-0111
https://chuokai-shiga.or.jp

令和6年3月発行

既存事業に新たな視点を加えて
活性化を目指す

「組合の事業再構築事例」

①業界団体の特性を活かして付加価値を生み出す事例

「業界で取り組む未来に伝える大事なコト」
滋賀県印刷工業組合

②組合で新工法の開発に取り組み、組合員企業の活性化を目指す事例

「攻めの戦略で活路を見出す！ 組合による新工法の開発」
滋賀県瓦工事協同組合

01 滋賀県印刷工業組合

守山市勝部三丁目11番16号　アヴァンセ守山 302
TEL. 077-582-6184

業界で取り組む未来に伝える大事なコト

組合の概要　1957年設立。印刷に関する教育・情報提供事業を中心に調査研究や技術力の向上に取り組んでいます。年2回発行の広報誌「印刷しが」では、業界のトピックや組合員の動向を発信し、組合の認知度向上とともに業界の発展に努めています。

取組の背景・目的

近年、デジタル技術の進化により印刷物の需要は減少傾向にあり、コロナ禍を経てより一層印刷物をはじめとした広報媒体のデジタル化は加速しています。こうした背景から、私たちは2025年に組合設立75周年の節目を迎えることを見据え、印刷業の「社会における存在意義」を改めて見直す事業に取り組むこととしました。

この事業では、滋賀の風土、文化、自然や暮らしの中に根付き、脈々と受け継がれてきた「地域の色、伝統の色」を滋賀県立大学 人間文化学部生活デザイン学科と連携して収集し『淡海のいろ』として選定。滋賀のストーリーを宿す「淡海のいろ」を通じて印刷物をはじめとした付加価値の向上を目指しています。

取組における新たな視点

●ハードを追わずソフトを追求した

デジタル化の進展は、私たちの生活に様々な恩恵をもたらす一方で、画一化が進み地域の特性などが希薄になる側面があります。滋賀県は、中央に琵琶湖を有し、豊かな自然環境と多くの歴史・文化遺産が県内に広く分布しています。こうした風土と地域の暮らしが結びつき、文化として大切に引き継がれてきました。私たちは、こうした普遍的な価値を印刷で表現することができないかと「色」に着目したのです。印刷に欠かすことのできない「色」を通じて、滋賀の魅力を伝えることを目指し、2022年度は12色。2023年度は15色を追加し、合計27色を選定しました。

●未来を担う世代に託す

このプロジェクトは、未来（次世代）に伝える「淡海のいろ」を収集・選定することが大きなミッションです。そこで、滋賀県立大学の徐研究室の学生が、滋賀の街を歩きフィールドワークを通じて色を収集しました。集められた色は組合、大学、企業の3者で検討を重ね、最終的に滋賀にふさわしい12色を選定しました。それぞれの色には収集した地域と名前が色番号及び独自のアイコンとともに付され、「淡海のいろ」の成り立ちが見て取れます。学生の感性を色として再現する過程や技術は、私たちにとってもカラーマネージメントやデザインの研鑽に繋がりました。

今後の展開と目標

「淡海のいろ」12色については、商標登録申請を済ませて2023年3月1日～12日までの間、滋賀県立美術館にて展示会を開催しました。展示会では安曇川の特産品であるアドベリーの美しい赤を表す「安曇紅」や丁稚羊羹の小豆が持つ上品な色を表した「でっちのおやつ」などユニークなネーミングとそれぞれの色が持つストーリーが高い評価を得ました。新たに加わった15色も含めて、私たちは認知度の向上が一番の課題と捉えています。また、どんな色であっても紙に印刷するか布に印刷するかで発色は大きく異なります。選定した「淡海のいろ」について印刷媒体により生じる色差をどこまで許容するのかなど、技術的に高い管理能力が求められますが、公益性が高い取組だからこそ、業界団体が責任を持って管理することで、「淡海のいろ」が地域の資産となり、新たな文化の起点となることを願って、私たちは活動を継続していきます。

ここがポイント!

- ●滋賀の風土、文化、自然や暮らしの中に根付き、受け継がれてきた「地域の色、伝統色」を「淡海のいろ」として収集・選定し、未来に伝えていきます。
- ●地域の印刷物の付加価値を高めるために文化的な領域にまで踏み込みました。
- ●公益性の高い事業だからこそ、業界団体がしっかり管理する必要があると考えています。

公式URL　https://www.pia-shiga.com/

02 滋賀県瓦工事協同組合

滋賀県守山市木浜町100番地
TEL. 077-585-3600

攻めの戦略で活路を見出す！組合による新工法の開発

組合の概要　1973年設立。職業訓練校の運営を通じた技能検定やトライアルの実施など業界として技術力の向上に取り組んでいます。瓦に対する理解を深めてもらうための啓発や社会貢献活動にも注力し、瓦屋根工事技術者の社会的地位の向上や業界の発展に努めています。

取組の背景・目的

近年全国各地で地震や豪雨などの自然災害が数多く発生しており、家屋の倒壊・損傷などの他、瓦屋根に関連する被害も多発しています。温暖化により台風も年々巨大化しているため、建築基準法の改正により、令和4年1月1日から屋根施工の留め付け基準が強化され、瓦の全数結束と棟部施工の強靭性向上が求められることになりました。そこで、組合ではこの建築基準法の改正を自分たちの技術力を示すチャンスと捉え、落ちない・崩れない棟部の施工を組織の強みとするため、これまで培ってきた技術・ノウハウや実績を活かし、施工効率化、リーズナブル化、部材確保の容易化を追求した独自の瓦工法の開発に取り組みました。

取組における新たな視点

●自分たちの技術力を信じる

建築業界では合理化が進み、職人でなくても一定の基準を維持した施工が可能になりつつありますが、瓦屋根職人については、昔と変わらず高い技術力が求められています。組合が開発した新工法は、特定のメーカーの耐震部品などは使用せず、組合員がこれまで研鑽を重ね維持・向上に努めた技術力や長年培ってきた経験を組合が取りまとめ、公的機関において試験・評価した後、新たな工法として確立した組合独自の技術となります。

●ノウハウを共有してオープンに

本来、新工法はその利益を守るため詳細な情報公開をしないケースが多いのですが、私たちは組合のHPで仕様や耐震性能試験の様子を隠すことなく公開しています。それは、家屋が倒壊するのは瓦屋根が重いからではなく、適切な施工をすれば瓦屋根は高い耐震性を確保できることを知っていただきたいからです。そのためにも新工法のノウハウを共有しオープンにすることで、消費者の信頼を得ることに加え、業界全体の活性化にも貢献することを目指しています。

今後の展開と目標

新工法開発の経緯には、職人としての強い想いが関係しています。私たちは、常日頃からお客様に満足していただける工事を心がけており、経験則に基づきながら改善を重ねてきました。そうした姿勢が強度の高い施工を生み出し、あいち産業科学技術総合センター三河窯業試験場にて試験・評価していただいたところ、高い耐震性が認められる結果となりました。

日本の文化でもある瓦葺きの住まいは、夏涼しく冬暖かいことで知られています。それは瓦が他の屋根材（スレート屋根や金属屋根など）に比べて断熱性が高いためです。また、日本瓦の耐用年数は50年～100年とも言われています。私たちは、この優れた建築資材をお客様に安心して選んでいただけるよう、新工法の開示を通じた瓦屋根の耐震性や組合員の施行技術の高さを今後も発信していく方針です。

ここがポイント!

- ●職人個人では負担が大きい新工法の試験・評価の費用を組合が準備しました。
- ●新工法を囲い込むのではなく、組合のオリジナル工法としてオープンにしました。
- ●新工法は組合だけでなく、全国上部団体と広く共有、公開し、瓦屋根のイメージ向上を目指します。

公式URL　http: https://shigakawara.com/